

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成29年7月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900555		
法人名	有限会社 ケア・プラザ		
事業所名	ケア・プラザ れんげの里		
サービス種類	(予防)認知症対応型共同生活介護		
所在地	〒584-0082 大阪府富田林市向陽台1-4-16		
自己評価作成日	平成29年6月6日	評価結果市町村受理日	平成29年8月3日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1278番地の2
訪問調査日	平成29年6月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意志及び人格を尊重し、出来ない事はお手伝い、出来る事を見出し見守るケアを理念として家族様や地域の方々への理解を深めその人のリズムに合わせた生活の場を提供することに努めています。また、近隣する提携医療機関とは24時間の対応が可能であり緊急時でも安心していただけます。職員は終末期の看取りケアにも対応可能で重度の認知症状の方でも寄り添いながら個別の対応が可能です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ケア・プラザ れんげの里は、隣接する内科クリニック(協力医)と24時間体制の医療連携を図っており、医療行為が必要な利用者も安心して生活を送ることができるグループホームである。認知症の周辺症状などの対応は、症状に合わせてできる限り職員が声掛けや行動の把握に努め、薬を使用せずに周辺症状が改善できるように取り組んでいる。重度化や終末期については、利用者・家族の意向を尊重し、利用者一人ひとりの状況に合わせた看取り介護を行っている。

法人の理念に沿った支援ができるように、職員は「振り返りノート」で自己評価を行い、管理者はコメントを加えて職員に指導している。その結果、管理者と職員の絆は深まり、サービスの質の向上につながっている。

食事は手作りで、季節の野菜等旬の食材を取り入れ、嚥下能力に合わせて調理を工夫し、楽しく食事ができるように職員から声かけしている。花見や敬老会等、毎月事業所が開催する行事で、利用者は家族、職員等と一緒に、食事やゲーム、外出を楽しんでいる。事業所は市と連携して、毎月「びあ介護相談員」の訪問を受け、利用者が抱えている悩みや不安を相談員が聴き取り、職員と意見交換を重ねることにより、サービスの質の向上に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、毎朝の朝礼(申し送り)時に全員で唱和しています。また、職員は毎週実践できたかノートにて振り返りを行っている	法人理念を共用フロアに掲示し、毎朝唱和している。職員一人ひとりには理念の実践ができたか「振り返りノート」を活用し、毎週自己評価している。管理者は職員の自己評価にコメントを加え、日々理念に沿った支援ができるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加盟し色々な催しに参加させていただき交流を図っている	自治会に加入し、回覧板や広報を貰っている。日々、散歩の際に地域の人々と挨拶を交わしている。年1度、利用者は職員と一緒にふれあいサロンや近隣小学校で開催する盆踊りへ参加している。地域の呼びかけがあり、職員は半年毎に地域の清掃活動に参加しているが、事業所に地域住民の訪問等は見られない。	地域との関わりが少なく、今後地域住民や近隣の保育園・小学校等との関わりが持てる様な取組に期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談ポスターなどを通りに掲示し、気軽にご相談をいただけるようにしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の現状や取組状況などについて報告し、皆様からのご意見を参考に次に生かすようにしている	運営推進会議を2ヶ月毎に開催し、参加者に会議開催の案内文を送付している。利用者や家族、地域住民、地域包括支援センターの職員、事業所の管理者・職員が参加している。実地指導での指摘や高齢者虐待対応、家族からの要望など、双方向的な意見交換を行っている。議事録は職員全員に回覧し情報の共有に努めている。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>グループホーム交流会開催時に、市の担当者にも一部参加していただき、連携を取り協力関係を築くようにしている</p>	<p>市の担当者とは、事業所の空室情報や法改正等の情報交換を行っている。市が取り組んでいる「介護相談員派遣事業」により、毎月「びあ介護相談員」の訪問がある。年1度は市の職員と介護相談員を交え意見交換を行っている。 市の会議室を利用した「グループホーム交流会」では、市の職員も参加し、連絡事項や情報の共有など協力関係が築けるように取り組んでいる。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関はチャ임に変え、鍵の施錠をなくし、身体拘束についても各研修などを通じて理解を深めるよう努めている</p>	<p>毎年、研修計画に身体拘束に関する外部研修の受講を位置づけ、受講を希望する職員が受講している。その研修に参加できなかった職員には、伝達研修を行ない、職員全員で研修内容を共有している。管理者や職員同士は、日々の支援でお互い注意合っている。玄関は開錠しているが門扉は安全の為に施錠している。利用者が出かけた時は、職員が一緒に付き添っている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員は、各研修などで学ぶ機会を持ち、夜間時も含め勤務者が一人にならないようにしている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>月例のミーティングや外部研修などで理解を深め、関係者と話し合い活用できるように取り組んでいる</p>		

9	<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>介護保険制度及び事業所のサービス内容について資料を用意するとともに、入居者様やご家族様に十分ご説明している</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>第2土曜・日曜日を家族会とし来里された方のご意見を聞かせていただき、業務に反映するよう取り組んで入る</p>	<p>家族会や運営推進会議、家族等の訪問時に意見や要望を聴き取っている。訪問の少ない家族等には、介護支援専門員が電話や訪問を行い、思いなどを聴いている。家族等からは利用者のケアに関する要望が多く、日々の申し送りやミーティングで話し合い職員間で情報を共有し、支援に反映している。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月例のミーティング時には、職員からの発表の場もあり、自由に意見や提案を話せる機会がある</p>	<p>管理者は勤務時間中にいつでも職員の意見や提案を聴くように努め、職員に変化など観られる場合は、声をかけ個別に面談している。毎月のミーティングには法人代表が参加し、職員の提案や要望を聴き取っている。車いす体重計やリクライニング車いすの購入、勤務体制の見直しなど職員の意見を反映している。</p>
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>内部研修や外部研修の機会を持ち、各自向上に努めている</p>	
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修・外部研修に参加できるように機会を設けている。他地域の研修にも参加できるように情報収集、公開を行っている</p>	

14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>行政主催の会議(研修会)やグループホーム交流会などに参加したり、他施設の運営推進会議などに参加し交流を深めるように努めている</p>		
----	--	---	--	--

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>しっかりと話を聞き、受け止めることで信頼関係を築き心を開いてもらえるように努めている</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ゆっくりと、具体的にわかりやすいように説明させていただき、納得して利用していただけるように努めている</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要としている支援はもちろん、要望を確認し他のサービス利用に努めている</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>私たちの先輩として傾聴し、ご苦労されたこと、子育てのやり方など、多くを学ばせていただいています。さらに特技や趣味なども学ばせていただいています</p>		

19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>日々の暮らしの中での出来事や昔話を聞かせていただき、ご家族様と一緒に支援させていただいています</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>定期的に催しなどの写真や日頃の様子を伝えるなど行っています</p>	<p>利用開始時に利用者や家族等から生活歴を確認し、「私の生活史」に記載している。馴染みの場所や人との関係が途切れないように、行き付けの洋服店や美容院、知人の訪問や信仰の関わりなど支援している。法事や墓参りへは家族が行っている。ケアセンター「けあばる」へ散歩に行く際に立ち寄る自家栽培野菜の販売所で、利用者が、地域の人たちと挨拶を交わす中で新たな馴染みの関係を築いている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーション活動の援助の強化、ご利用者様同士の趣味の共有などを考え、席が隣り合わせになるなど、気配りしている</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>利用終了後もスーパーなど近隣で出会う事があり、ご家族様から相談を受けますことがあります</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りコミュニケーションをとり、朝一番のコーヒー・紅茶など一人一人の今までの暮らしに合わせたケアを行っている	職員は普段のコミュニケーションの中で利用者一人ひとりの思いや意向を聴き取っている。聴き取った情報は、申し送りや連絡帳に記入し、職員間で情報の共有を図り、支援に活かしている。意思疎通の難しい場合は、利用者の表情等から思いを汲み取って、できる限り本人本位の支援ができるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	基本情報の把握と日々のコミュニケーションの中で、くみ取り反映するよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の観察の中、職員同士の情報交換などで把握し支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の意見を尊重しつつ、職員が意見を出し、出来る限りご本人様の希望を優先させる介護計画にしている	介護支援専門員が利用者や家族の意向を聴き取り、また職員からは支援の意見や利用者の日々の状況を確認し、介護計画に反映している。3ヵ月毎にモニタリングし介護計画を見直している。利用者の状態に変化があった場合や新たな要望があった場合は、適宜介護計画を見直している。家族から直接意見を聴く機会として家族会を設けているが、参加できない場合は電話や訪問で聴き取っている。	

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化ノート、急変ノートを使い、申し送りなどで情報を共有している		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、個別観察に力を注ぎご利用者様の都合に合わせたサービスをしている		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事などに参加させていただき、積極的に交わりを持つ機会をつくっている		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様が希望される医療を受診されている。また、専門医に診ていただけるよう支援している	入居者のうち4名は、入居前からのかかりつけ医であるが、その他の入居者のかかりつけ医は入居後、協力医に変更している。受診の際は、管理者又は介護支援専門員が付き添う事を基本としているが、無理な時には家族が同行している。受診結果は医療連携ノート、管理日誌に記入しており職員間で情報を共有している。家族には電話にて連絡してる。	
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	定期的診察や往診時に、日頃気付いた事を医療連携ノートをつくり記入しておき、それを伝えて支援している		

32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	地域医療連携と主治医との話し合いにより、ご利用者様とご家族様の要望を反映している		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における方針を入居時や状態が悪化した時に、主治医を交え医療連携体制と看取り指針を作成確認し、支援している	重度化や終末期に向けた方針は、事業所が作成した看取り指針に基づいて、利用開始時に説明を行っている。利用者が重度化し終末期を迎える頃、主治医を交え家族、介護支援専門員、職員と話し合いをし、改めて方針を決め、同意書を作成している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時ノートをつくり職員全員で共有している。事故発生時、発生後も反省会を開き報告書を作成しミーティング時に話し合いを持っている		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回訓練を実施している。具体的な避難の方法を全員で実践している、また運営推進会議などを通して地域の方々との連携についても話し合いを行っている	消防訓練を年2回、夜間想定を含め実施している。2階には避難用滑り台を設置しており、職員が消防訓練の際に試し滑りをし、避難方法を話し合っている。運営推進会議で、地域の協力が得られるように話し合っている。水、乾パン、缶詰を備蓄し、年に2回点検している。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14 ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を大切にし、理念を重んじた言葉がけに努めている	個人情報記録した書類等は鍵付き書庫にて保管しており、職員はプライバシー保護に関する研修に毎年参加している。参加できなかった者には伝達研修を行い、全職員で研修内容が把握できるように努めている。法人の理念に沿い、利用者の人格を損ねないように努めている。	
----	---	--------------------------------	--	--

37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の思いや希望を大切にすよう職員全員が受け止めご利用者様が納得できるよう努めている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、昼寝、入浴など一人一人のペースに合わせて自由にしていただく支援を行っている		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの時など、ご自身で髪の手入れをしていただいたり、時には女性の方にはお化粧をしていただいたりしている		
40	15 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	理念の通り、温かい物は温かく・冷たい物は冷たく、嚥下に気遣った大きさや味付けに工夫し、ご利用者様と一緒に準備や片づけを楽しみながら行っている	毎日、食事担当職員が在庫食材から献立を考え利用者と一緒に同じ食事をし利用者の意見等を聴き取りをしている。食材は安全を考慮し生活協同組合より、1週間単位で購入し、足りない食材は地域の野菜直売所等で購入している。行事食も季節感を感じられるように工夫している。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられた量、水分摂取量の少ない人にはどう対応すればよいか手探りですが、個別に対応した支援を行っている		

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週一回の歯科衛生士による検診と毎食後の口腔ケアの声かけと誘導を徹底している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	時間を決めてトイレ誘導をすることにより失敗を防ぐように努めている	利用者の仕草からトイレ誘導することもあるが、時間帯を決めてトイレ誘導することが多い。排泄の状況は利用者個人の生活記録に記録している。水分摂取を促したり、排便を促すような献立内容に工夫を凝らし、便秘予防に気を付けている。	時間帯でのトイレ誘導が中心ではなく、生活記録を活かした個別の排泄支援ができることを期待する。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者様の便通に応じた対応をしています。便秘体操や運動なども取り組んでいます		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調などに考慮しながらあらかじめの予定は決めています、ご利用様の希望に合わせて支援している	週2回入浴日が決められているが、希望すれば、毎日の入浴にも対応することが可能である。シャンプーや石鹸等も個人の好みの物があれば対応している。季節湯(ゆず湯、菖蒲湯等)も実施し利用者に楽しんでもらえる工夫をしている。入浴を嫌がる利用者には、入浴日、時間帯を変えたりするほか、声掛けを利用者に応じて変える等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の要望を優先しています。一人一人に合わせて、朝ゆっくりと寝たい人には朝食などを遅くするなどの支援を行っている		

47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>ノートなどに個別に記入し、副作用など薬の説明を確認しながら支援している</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>生活リハビリとして個々のお手伝いなどをしていただき、またレクレーションなど役割を分担しご利用様が楽しめるよう支援している</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>毎日天気さえ良ければ、散歩に出かけます。ご利用様の希望を把握し外食や買い物にも出かけていただいている</p>	<p>天気の良い日には、事業所近くの遊歩道に毎日散歩に出掛けている。近くのスーパーマーケットにも希望があれば買い物に出掛けたりもしている。墓参り等の遠方への外出には家族が付き添っている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>散歩の途中などコンビニや自動販売機を利用して支援している</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙を散歩のときに投函していただいたり、電話もご利用様ご自身でかけられる方は自由にできるように支援している</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>手作りカレンダーや馴染みの写真の掲示など生活感を取り入れて工夫しています</p>	<p>台所は対面方式で、食事作りの音や匂いが感じられ生活感が漂っている。 共有スペースには、明るく開放的な大きな窓があり、夏にはPLの花火を楽しむことができる。居間兼食堂の中央に置いたテーブルを囲むように座りテレビを観たり会話して過ごしている。利用者同士の相性や心身の状況に応じて、席の配置を検討するなど、一人ひとりがストレスを抱えることなく過ごせるように配慮している。職員と共に利用者が手作りした展示物やカレンダー、行事の写真などを見て会話し、季節感や生活感が持てるように工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングの机の配置など居場所の工夫をしています。気の合う同士が話しやすくなるように工夫しています</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご自宅より持ってこられたカレンダーやご家族様の写真を飾られたりと工夫をしています</p>	<p>全居室が6畳の和室で、エアコン、ベッド、テレビは備え付けである。利用開始時に利用者がこれまで使用していた筆筒、仏壇、壁飾り、置物、写真等を持ち込んでいる。また夫婦でも入居出来るよう、二間続きの部屋を用意している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>自立に近い生活ができるように工夫しています</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができてきている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない